



大樹のこころ

1学期を振り返って

今日で1学期が終了となります。この1学期も様々な出来事がありました。振り返ってみた時、どうしても避けることができないのが校舎改修工事の話題です。現在も中校舎と南校舎で工事が行われています。授業中には「工事音」を出さないように施工者をお願いしてありますが、放課時や授業後などには、かなりの大きさの音が出ます。最近の子供は「音に弱い」面があり、メンタル的な影響が出ることを心配していました。けれども子供たちは上手に順応し、落ち着いて生活を行うことができました。運動場も工事の影響を受けました。校庭には工事車両の轍が残り、雨天時には泥田になるところも出てきました。水はけが悪くなり水たまりもできるようになってきました。運動場の一角が仮設校舎と駐車場になった関係で狭くなり、体育の授業や放課での外遊び・部活動も制限を受けるようになりました。そんな中ですが、工夫をして子供たちの運動量を確保していきました。



学習発表会も思い出に残りました。昨年度までの反省を生かし、「保護者の皆様に観やすい発表を」というコンセプトをもとに企画運営をしました。また子供たちにも他学年の発表を観る機会を設けました。子供たちが観る場所にはゴザを敷き、保護者席はパイプ椅子を用意して高低差をつけた上で、子供の演技はなるべくフロアではなくステージ上で行うようにするなど観劇しやすい工夫をしました。スクリーンも舞台中央のものと体育館左の常設のものを併用し、豊かな演出を心掛けました。その結果、最高の発表内容になったと思います。どの学年も見応えのある発表会となりました。



もう一つ記憶に残ることがありました。それは6月27日に行われた合同訪問です。市教育委員会の主事や教科領域指導員が、本校の授業の様子を視察に来ました。来年度の研究発表会に向けての事前指導ということで、改善点などを指摘される会です。しかし、「この授業ならば、今年度中に発表会を実施してもよいのではないか」と言われるほど、多くのお褒めの言葉をいただきました。自分は「授業で学校を創る」ということを信条としています。これまで先生方と一緒に「より良い授業づくり」に取り組んできました。試行錯誤をしながら研修を重ね、どのクラスも素晴らしい授業が展開されるようになってきたと思っていました。それを合同訪問で、外部の人に認めてもらったのです。大樹寺小の方向性が間違いはなかったと嬉しく思いました。「子供たち全員が参加できる授業」をこれからも目指していこうと考えています。



さあ、明日からは楽しい夏休みです。自由な時間を有効に活用し、思い切り楽しんでください。2学期の始業式で、また元気な大樹寺っ子に会えることを楽しみにしています。